

季節の変わり目、皆様お元気でお過ごしでしょうか？梅雨入りしたものの、東京では真夏のような天気の日もありました。今月号では前回に引き続き、南スーダンからの報告です。前回ご紹介した南スーダン、マルワルコンの難民支援事業をサポートしている南スーダンの中心地ジュバ事務所へ赴任したボランティア調整員、廣田倫子さんからのレポートをお届けします。また昨年ご好評を頂いたスリランカスタディーツアーを今年も実施いたします。ツアー詳細のお知らせもお楽しみに！

プロジェクトサイト：スーダン

【南スーダン ジュバに赴任して】 南スーダンボランティア調整員 廣田倫子

5月14日～5月27日まで、アムルトインターナショナルの南スーダンでの活動拠点である北バハル・アルガザール州東アウィル郡マルアルコンの難民キャンプに滞在し、アムルトの現地活動を視察した後、5月28日より南スーダンの中心都市である中央エカトリア州ジュバ市に移りました。マルアルコンからジュバ国際空港までは、国連のチャーター機で2回乗り継ぎ、4時間程かかりました。ジュバの平均気温は、日中30度前後となりますが、朝晩は15度前後に下がります。湿度が高い日が多いため、日本の夏のような蒸し暑さを感じます。

● 南スーダンの概況

スーダン共和国では、2005年1月9日、北部のスーダン政府と南部の反政府組織スーダン人民解放運動/軍(SPLM/A)の間で、南北包括和平合意が締結され、1983年以来20年以上続いたアフリカ最長の南北内戦が終結しました。その結果、同年7月には、北部出身の大統領・南部出身の第一副大統領から成る統一暫定政府が樹立され、10月には南部スーダンでも新政府が成立しました。現在、南スーダンでは、国際社会の支援を受けながら戦後復興が着実に進んでおり、首都のジュバ市でも今後多くの国内避難民・難民が帰還・定着し、人口の増加が急速に進むことが予測されています。

● ジュバ市内の状況

ジュバ国際空港から車で10分程南下すると、ジュバ市内中心街があります。現在は、ジュバ市内全体で道路の復旧工事が進んでいますが、赤土で凹凸の激しい道が多いため、降雨後は至る所で沼地となり、車での移動も大変困難となります。市内での住宅・宿泊施設の建設工事も急ピッチで進められているものの、国際機関・NGO等の援助関係者の多くがテント暮らしをしています。ジュバ市内のホテルは、テント・プレハブ・アパートなど様々な形式があり、一泊US\$60前後～\$200超と価格も大きく異なります。また、ホテル経営者は、スーダン・インド・アラブ首長国連邦など国籍も多様で、従業員に関しても、スーダン人以外にケニアなど隣国からの出稼ぎ労働者を多く見かけます。

ジュバ市内の一般家庭は藁葺屋根の住居に暮らしており、藁の柵で区切られた敷地内で、数組の家族が集団生活をしている姿を多く見かけます。市内マーケットでは、スーダン北部・ウガンダ等からの輸入品が多く、生活必需品は大体入手可能ですが、搬入コストの影響か物価高が目立ちます。また、大半のマーケットは、スーダン北部出身者で経営されており、アラビア語が主要言語であるため、英語圏の隣国からの出稼ぎ労働者が苦勞している話も耳にします。

● アムルトインターナショナルのジュバオフィス

アムルトのジュバオフィスは、市内中心街から車で5分程の比較的便利な場所にあります。オフィスのある敷地内は、30戸程の賃貸住居が立並び、NGOや民間企業等が事務所として使用しています。オフィス用品は、ジュバ市内で入手困難な物に関し、ナイロビ事務所から調達してもらっています。

ジュバオフィスでは、プログラムマネージャー(Mr. Nick O. Mayison)の管轄下、アムルトの他事務所との連携を図りながら、南スーダンプログラムの資金調達、モニタリングと評価、国際機関・各国政府援助機関・他NGOとの交渉・連絡調整等を行っています。

私個人の日常業務の大半は、アムルトの南スーダンプログラムに関する進捗状況レポートの作成ですが、南スーダンで実際行われている戦後復興プロジェクトを報告できる事を大変意義深いと感じます。首都のジュバ市に滞在していると、国際機関・各国政府援助機関・NGO等、非常に多くの方々と会う機会があり、南スーダンで展開されている支援形態の幅広さに圧倒されます。ボランティア調整員として派遣されている間に、少しでも多くの情報をジュバから日本へ報告し、南スーダンの平和構築の一助になれば幸いです。



降雨後のジュバ市内道路



ジュバ市内の一般的住居



オフィス前のゲート

スリランカ いろいろ体験スタディーツアー
参加者募集中！詳細は裏面へ

お知らせ！

◆スリランカいろいろ体験 アムルトジャパンスタディーツアー 参加者募集！

～スリランカの人々との交流、文化を通してスリランカを体験！～

協賛：スリランカ航空、スリランカ政府観光局 協力：日本スリランカ友の会

津波災害発生から、既に2年以上が過ぎました。スリランカは被災からどのくらい復興したのか？人々はどのような生活をしているのか？スリランカの人々との交流を通してスリランカの現状をご自分の目で確かめてください。

ツアーでは、アムルトジャパンの活動地域スリランカ南西部ゴール県を中心に、元仮設住宅の住民、津波被災女性たちを訪問しインタビューをします。また、マータラにある孤児院訪問、紅茶工場見学などを通していろいろなスリランカを体験しながら、どのような支援が必要とされているのかを考えます。



ツアー日程：2007年8月25日（土）～9月1日（土） 8日間

参加費用：165,000円（成田航空使用料および空港税及び燃油サーチャージ等が別途かかります。）
（学生、アムルトジャパン会員、アムルトジャパンボランティア経験者およびツアー申込時に会員登録された方は160,000円）

資格：18歳以上の男女。

募集人員：10名（定員になり次第締切）最少催行人数5名

訪問地：コロombo市内（観光、国会議事堂訪問、日本語学習者との交流）、ゴール県内（被災者との交流、紅茶工場訪問、観光など）、マータラ県（孤児院訪問）*現地の都合によりスケジュールが変更になることがあります。

お申込締切：2007年7月27日（金）

*ツアー詳細は当団体ウェブサイトにてご覧ください。http://amurt.or.jp/jap/news_studytour.html

◆2007年5月、4つのイベントに出展しました。

各イベントではアムルトの活動紹介およびアムルトプロジェクト参加者の製作物や民芸品の販売を通して支援地域やアムルトの活動についての関心を深めていただきました。

今後もこのような活動を通して、積極的にアムルトの活動や支援地域の紹介を行います。

<出展イベント>

- 5月12日（土）多摩動物公園 50周年記念プレイイベントスリランカ象アヌーラ来日50周年を祝う会
- 5月15日～6月3日：夢の島熱帯植物館「ヤシの力」展でのスリランカ民芸品販売
- 5月19日（土）、20日（日）：アフリカン・フェスタ2007
- 5月26日（土）、27日（日）：第4回スリランカフェスティバル

*各イベント出展の様子は当団体ウェブサイトにてご紹介しています。是非ご一読ください。
http://amurt.or.jp/jap/news_index.html



ニジェール栄養失調児支援のための募金にご協力下さい

アムルトジャパンでは“ニジェールの子もたちを救え！生きるちからを送ろう”キャンペーンと題し、ニジェール栄養失調児支援のための募金を随時受け付けております。皆様から頂いた募金はアムルトニジェールに送られ車の購入費用、現地での活動管理費用などの目的で使われます。皆様からのご協力をお待ちしております。

<お振込先>

郵便局からお振込の場合

郵便振替口座：00140-7-613-902

振込先名義：アムルト ジャパン

銀行からお振込の場合

銀行振込口座：三菱東京UFJ銀行 銀座通支店（普）1231263

口座名義：特定非営利活動法人 AMURT Japan

◆Paypalをご利用の方は、当団体ウェブサイトトップページより専用ページへアクセスしてください。

ご連絡は info@amurt.or.jp または 03-3338-3551 原田まで。

ボランティア募集！

下記の作業をお手伝いして下さるボランティアスタッフを募集します。

- アムルトの活動を基にした小中学生向け国際理解教育開発
- 事務局内の事務作業
- 経理の経験がある方で事務局の経理のサポート
- パンフレットなどのデザインのアドバイスまたは製作

ご連絡は、info@amurt.or.jp または 03-3338-3551 までお願いいたします。

